

土木会会報

Vol.19

2023. 9



防衛大学校土木会



巻 頭 言

～ 防衛大学校において土木を学ぶ意義 ～

会 長 小 林 弘 樹

防衛大学校土木会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、土木会会長を拝命致しました、本科34期の小林です。よろしくお願ひいたします。前職は第8師団長（北熊本）であり、熊本城（銀杏城）にも何度か足を運びました。火の国・熊本において史跡めぐりをした際によみがえった三十数年前の記憶、加藤清正公に憧れ、防衛大学校で土木を専攻した時の思いをつづります。

安土桃山時代から江戸時代初期にかけての武将、賤ヶ岳（しずがたけ）の七本槍（やり）のひとり、加藤清正公は土木の匠（たくみ）でした。熊本城の築城をはじめ、河川の治水・灌漑（かんがい）・干拓などを進め、荒廃していた肥後熊本の国土強靱（じん）化のための整備を強力に進めることで、民心を安定させました。

『人は一代 名は末代 天晴武士の心かな』という清正公の言葉があります。その解釈として、「人の体は一代で滅びるが、人の行った業績は永遠に残る。今の一瞬ではなく、未来に名前を残せ。永遠に生きよ。それが優れた武士の心構えである。この武士を志ある人と理解する」とあります。清正公は、戦乱の世において「戦（いくさ）の才」を遺憾なく発揮させつつ、民心を安定させるため数々の戦で培った「土木の才」を最大限に活かし、未来に残る国づくりを進め、人々の幸せを願う高い志を持ち続けた戦国武将です。

「戦の才」と「土木の才」の吻（ふん）合。当時、二十歳前後の私は、防衛大学校で土木を学ぶことの意義・本質が正にここにあると感じ、迷わず土木を選びました。そして、現在、土木の知識を有する幹部自衛官には、未来に残る国づくりのため、現状の課題を解決しつつ、常に将来を見据えチャレンジするリーダーとして、治に居て乱を忘れず、事に臨んでは危険をも顧みず、身をもって責務の完遂に努め、国家国民の負託に応える使命感が求められていることを痛切に感じています。清正公に笑われぬように。

終わりに、国内外情勢は不透明・不確実な状況が継続していますが、会員の皆様が、更にご発展されることを祈念申し上げます。

（陸上幕僚副長）

目 次

学科長挨拶	1
土木会ニュース	3
・ 学科の現況について	3
・ 建設環境工学科学学生の受賞・学位取得について	4
・ 令和5年度土木会総会について	6
事務局より	7
「防衛大学校土木会」の歩み	8
期別便り	12
決算報告（令和3・4年度）	27
防衛大学校土木会会則	28
土木会役員等	31



学科長挨拶

～ 近況報告 ～

建設環境工学科 学科長 八木 宏

防衛大学校土木会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様には平素より建設環境工学科の運営に関して格別のご支援をいただいていることに厚く御礼を申し上げます。

まず、学科として嬉しいご報告がございます。令和4年度に古屋信明先生が、瑞宝小綬章をご受章されました。古屋先生のご功績は紹介するまでもありませんが、ここに改めてお祝い申し上げる次第です。

建設環境工学科の近況ですが、現在、八講座（構造力学、建設材料工学、設計工学、環境防災工学、国土環境工学、地盤工学、水工学、大規模震災工学）により教育・研究に当たっております。

教官陣では、令和4年3月に香月教授（構造工学）が退官されました。香月先生には、1987年のご着任以来34年余の長きにわたり土木工学教室、建設環境工学科の発展、そして学生や後進の指導に大変ご尽力いただきました。香月先生の教えは、育てられた多くの学生、そして我々現役教官にもしっかりと刻み込まれており、今後の建設環境工学科、そして防衛省・自衛隊の活動の礎になるものと信じております。

一方で、令和3年10月には本山先生が香川大学より講師（環境防災工学）として着任されました。また、令和3年10月に野々山先生、松崎先生が准教授へ、令和4年4月に篠田先生が教授へ昇任されております。先生方の今後のご活躍を祈念しております。

現在の教官布陣は表のようになっており、本科：四学年29名（内カンボジア1名、モンゴル国1名、タイ王国1名、ラオス1名）、三学年28名（内タイ王国1名）、二学年25名

建設環境工学科の教官配置

本科講座	構造力学	建設材料工学	設計工学	環境防災工学	国土環境工学	地盤工学	水工学	大規模震災工学
教授		黒田	別府	藤掛	佐野	宮田	八木多田	篠田
准教授	堀口		市野		野々山		嶋原	松崎
講師				本山		宮本		
助教							山本	

(内カンボジア 1 名) の合計 82 名、および理工学研究科：前期（修士）11 名、後期（博士）3 名の合計 14 名の教育・研究に当たっております。

新型コロナも 5 類感染症に移行し、これまで制限を受けていた学校行事、教育活動もようやくコロナ禍前の水準に戻りつつあります。一方で、大きく変化する社会情勢のもと防衛大学校を取り巻く環境も変わってきており、建設環境工学科の教育として、何を守り、何を変えていくか日々試行錯誤をしております。機会がありましたら、是非、学科の方にもお越しいただき、皆様の防衛省・自衛隊での貴重なご経験をお聞かせください（新しい校舎には懇談に使えるスペースもございます：写真下）。建設環境工学科の新たな教育・研究の方向性を考える上で是非参考とさせていただければと思います。

今後も建設環境工学科の教育・研究内容をより充実したものにしていきたいと考えておりますので、土木会会員の皆様方の変わらずのご指導、ご支援とご協力を頂けますと幸甚です。最後に、会員の皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

令和五年八月吉日



建設環境工学科のファカルティエリア

学科の現況について

建設環境工学科では、令和3年10月に野々山栄人准教授、松崎裕准教授、令和4年4月に篠田昌弘教授が昇任されました。新しく令和3年10月から本山紘希講師が着任されました。また、令和4年3月に香月智教授がご退官されました。建設環境工学科の教員の現況および学生の現況については、下記のとおりです。

1. 建設環境工学科教員の現況

氏名および職位	専門分野（期別）	氏名および職位	専門分野（期別）
藤掛 一典 教授	環境防災工学	嶋原 良典 准教授	水工学
宮田 喜壽 教授	地盤工学	市野 宏嘉 准教授	設計工学（46期）
八木 宏 教授	水工学	堀口 俊行 准教授	構造力学（50期）
別府万寿博 教授	設計工学（36期）	野々山栄人 准教授	国土環境工学
黒田 一郎 教授	建設材料工学	松崎 裕 准教授	大規模震災工学
佐野 博昭 教授	国土環境工学（27期）	宮本慎太郎 講師	地盤工学
多田 毅 教授	水工学	本山 紘希 講師	環境防災工学
篠田 昌弘 教授	大規模震災工学	山本 阿子 助教	水工学

2. 建設環境工学科学生の現況

(1) 本科

第4学年（68期）	29名（陸25、海2、空2）
第3学年（69期）	28名（陸24、海1、空3）
第2学年（70期）	25名（陸21、海2、空2）

(2) 研究科

後期課程	第3学年（21期）	1名（部外1）
	第1学年（23期）	2名（陸2）
前期課程	第2学年（61期）	7名（陸5、海1、空1）
	第1学年（62期）	4名（陸3、空1）

建設環境工学科学生の受賞・学位取得について

1. 学会等における受賞

令和3年9月から令和5年9月までに、本科・研究科学生の13件の論文や研究発表が表彰されました。特に毎年3月に開催される土木学会関東支部研究発表会には、研究科学生だけでなく本科学生も積極的に参加しており、一般大学の学生や企業の方々と同じ会場で1年間の研究成果を発表しております。その中で令和3年度（第49回）においては本科66期の仲田清夏氏、福野太一氏及び理工学研究科前期課程第60期の福井智大氏、令和4年度（第50回）においては本科67期の坂井大地氏及び小山拓途氏が優秀発表者賞を受賞しました。

2. 学位の状況

令和4年3月には、研究科後期課程第19期の小松喜治氏（本科第57期（通信工学））、同19期の濱田匠李氏（本科第57期（通信工学））及び横浜国立大学研修の喜納啓氏（本科第58期（建設環境工学））、令和5年3月には、研究科後期課程第20期の嶋川理氏（本科第59期（建設環境工学））が卒業し、研究科後期課程設立後、装備・基盤工学系専攻防災工学教育研究分野から輩出した学位取得者は合計18名となりました。また、現在国内大学研修生として、九州大学に修士課程学生の永井貫太氏（本科第64期（建設環境工学））が在学しています。

本科・研究科学生の受賞（令和3年9月～令和5年9月現在）

受賞者	受賞内容	研究題目	受賞時期
前期課程 高倉 太希	令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会優秀講演者賞	複数の斜面模型振動台実験結果を用いた Arias Intensity とエネルギー量の考察	R3.10
前期課程 福井 智大	第49回土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表者賞	NN を用いた腐食ひび割れ判定結果に及ぼす入力打音データ収録条件の影響	R4.3
本科 仲田 清夏	第49回土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表者賞	流木による橋梁閉塞における河川氾濫対策工の基礎的研究	R4.3
本科 福野 太一	第49回土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表者賞	透明粘土の地盤模型実験への適用性に関する基礎的検討	R4.3
後期課程 嶋川 理	令和4年度砂防学会研究発表会最優秀発表賞	個別要素法による透過型砂防堰堤の押し込み変形の影響解析	R4.5

前期課程 福井 智大	第7回コンクリート建造物の非破壊 検査シンポジウム新進賞	打音を入力とする NN を用いた腐 食ひび割れ判定結果に及ぼす衝突 速度の不均一性の影響	R4.9
前期課程 山内 稔也	令和 4 年度土木学会全国大会第 77 回年次学術講演会優秀講演者賞	接触爆発を受けるポリウレタ樹脂 裏面補強コンクリート板の損傷	R4.10
前期課程 福井 智大	令和 4 年度土木学会全国大会第 77 回年次学術講演会優秀講演者賞	NN を用いた打音による腐食ひび 割れ判定結果に及ぼす最大衝撃力 の影響	R4.10
本科 坂井 大地	第 50 回土木学会関東支部技術研究 発表会優秀発表者賞	5 分間で試料土の含水比が測定で きるグリセロール法の提案	R5.3
本科 小山 拓途	第 50 回土木学会関東支部技術研究 発表会優秀発表者賞	飛来物の繰返し衝突に対するポリ ウレタ塗布 RC 版の耐衝撃性に関 する研究	R5.3
後期課程 福井 智大	第 69 回構造工学シンポジウム優秀 講演賞	鉄筋腐食した RC 梁部材の NN を 用いた打音による腐食率推定に関 する基礎的研究	R5.4
前期課程 森藤 優一	第 69 回構造工学シンポジウム優秀 講演賞	LOF 及び k 近傍法による RC 梁の 損傷判定における周波数帯域の影 響の検討	R5.4
後期課程 福井 智大	第 45 回コンクリート工学年次論文 奨励賞	ニューラルネットワークに基づく 打音による鉄筋腐食判定に及ぼす テストデータ・教師データ収録時の 腐食率の整合性の影響	R5.7

令和5年度土木会総会について

1. 概要

令和5年6月30日（金）、グランドヒル市ヶ谷にて令和5年度防衛大学校土木会総会・講演会および懇親会を実施いたしました。コロナ禍により4年ぶりの開催となりましたが90名以上の会員の方々のご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。総会では、小林弘樹新会長（本科34期生）、圓林栄喜新副会長（本科35期生）、仲西勝典新副会長（本科37期生）をはじめ、新役員が選任されました。

2. 講演会

講演会では、前統合幕僚長の山崎幸二様より「我が国を取り巻く安全保障環境と自衛隊統合運用について」という題目でご講演を頂きました。国家安全保障戦略等の戦略3文書や自衛隊統合運用上の主要な課題についてこれまでの豊富なご経験からご教示頂きました。



講師 山崎 幸二 様



講演会の様子

3. 懇親会

懇親会では、八木宏学科長の学科紹介や、小林弘樹新会長（本科34期生）よりご挨拶を頂きました。4年ぶりの開催ということも相まって、終始賑やかな雰囲気ですべての土木会会員の絆を深めました。



八木学科長による学科紹介



小林新会長の挨拶

事務局より

防衛大学校土木会会員の皆様には、日々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、防衛大学校土木会も、昭和 61 年に発足して以来、皆様の暖かいご支援とご協力により、第 19 号の会報を発刊するまでに至りました。

本年度は、6 月に恒例の土木会総会・講演会および懇親会を開催いたしました。来年度も同様に開催する予定です。開催時期（6 月下旬）が近づきましたら、ホームページ (https://www.bodaidsk.com/community/tomo_kensetu/) 上でお知らせいたします。

また本年度は、2 年に 1 回の名簿発行の年でございます。発行は令和 5 年 12 月下旬を予定しております。34 期以下の方につきましては、10 月ごろに各期幹事の方々を通じ本年度 2 回目の名簿記載事項の調査をいたしますので、ご協力のほどお願い申し上げます。会員名簿の配布（有償）を希望される方につきましては、防衛大学校土木会事務局にお問い合わせください。なお、会員名簿は土木会会員の方に限っての配布とさせていただきます。

～ご寄付について～

前号の会報発行から、本号の発行までの間に次のとおりご寄付をいただきました。

期別	ご芳名	金額	日付
23	香月 智 様	4,000 円	R5.6.30

深く御礼申し上げます。

なお、会の発足から今に至るまで、皆様から寄せられたご寄付は 1,065,635 円となりました。皆様のご厚志に心から感謝申し上げます。

今後も事務局員一同、土木会の一層の発展を目指して運営に努めたいと思います。変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後に、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

事務局長 市野 宏嘉（46 期）

『防衛大学校土木会』の歩み

昭 61.12.6	第 1 回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京） 初代会長 東 俊（1 期）他役員選出 土木会会則の制定	
昭 62.11.10	会員名簿第 1 号発行	
昭 62.12.4	第 2 回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京）	（参加者 71 名）
昭 63.12.2	第 3 回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京） 第 2 代会長 中尾 時久（1 期）他役員選出 特別講演：志方俊之（2 期） ワシントンから見た日本の防衛	（参加者 113 名）
平 1.11.10	会員名簿第 2 号発行	
平 1.12.15	第 4 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：隈元保雄（4 期） 最近の中国事情とその背景	（参加者 83 名）
平 2.5.18	第 5 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：中谷 元（24 期、衆議院議員） 最近の国内外情勢について	（参加者 93 名）
平 3.6.14	第 6 回総会・懇親会開催/虎ノ門パストラル（東京） 第 3 代会長 坂本 良一（3 期）他役員選出 特別講演：鷹部屋 亮平 元教授（防大） 防衛大学校の思い出	（参加者 98 名）
平 3.12	会員名簿第 3 号発行	
平 4.6.12	第 7 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：鈴木 宏（砂防・地すべり技術センター専務理事） 雲仙・普賢岳災害と危機管理	（参加者 97 名）
平 5.6.12	第 8 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 第 4 代会長 岸良 征（6 期）他役員選出 特別講演：渡辺 隆（21 期、第 1 次 PKO 施設大隊長） PKO 活動に参加して	（参加者 95 名）
平 5.12	会員名簿第 4 号発行	
平 6.6.12	第 9 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：中溝 高好（防衛大学校副校長） これからの防衛大学校	（参加者 97 名）
平 7.6.16	第 10 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 第 5 代会長 若松 重英（7 期）他役員選出 特別講演：茅原 郁生（6 期、防衛研究所アジア地域担当室長） ポスト鄧小平の中国	（参加者 97 名）
平 7.12	会員名簿第 5 号発行	
平 8.6.14	第 11 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：佐藤 勝巳（現代コリア研究所長） 緊張高まる朝鮮半島情勢	（参加者 82 名）
平 9.6.13	第 12 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 第 6 代会長 藤原 利将（9 期）他役員選出 特別講演：赤石 勝（11 期、東海大学教授） 地盤に関する最近の話題	（参加者 84 名）
平 9.12	会員名簿第 6 号発行	

平 10.6.5	第 13 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 78 名） 特別講演：池井 優（慶応義塾大学法学部教授） 野球監督に見るリーダー論
平 11.6.11	第 14 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 68 名） 第 7 代会長 洗 堯（11 期）他役員選出 特別講演：荻野 アンナ（慶応義塾大学文学部助教授） 3 つの対話
平 11.12	土木会会報第 7 号発行
平 12.6.30	第 15 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 76 名） 特別講演：古屋 信明（防衛大学校建設環境工学科教授） 明石海峡大橋の技術について
平 13.6.11	第 16 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 101 名） 第 8 代会長 渡邊 元旦（14 期）他役員選出 特別講演：原 剛（防衛研究所戦史部調査員） 要塞を中心とした明治期日本の防衛構想
平 13.12	土木会会報第 8 号発行
平 14.6.14	第 17 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 73 名） 特別講演：西原 正（防衛大学校学校長） 最近の国際情勢と日本の安全
平 15.6.28	第 18 回総会・懇親会開催/防衛大学校（横須賀）（参加者 95 名） 第 9 代会長 得田 憲司（15 期）他役員選出 特別講演：中谷 元（衆議院議員） 任重く道遠し
平 15.12	土木会会報第 9 号発行
平 16.6.11	第 19 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 特別講演：川口 有一郎（早稲田大学教授） 金融工学者の祖国への思い
平 17.6.17	第 20 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 78 名） 第 10 代会長 中村 信悟（17 期）他役員選出 特別講演：坂本 まゆみ（航空幕僚監部 法務課 法学博士） 国際法とテロリズム
平 18.3	土木会会報第 10 号発行
平 18.6.9	第 21 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 79 名） 特別講演：岡田奈緒子（精神科医/山野美容芸術短期大学講師） 社会生活における健康とストレス
平 19.6.17	第 22 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 72 名） 第 11 代会長 大西 正俊（18 期）他役員選出 特別講演：森 勉（前 陸上幕僚長） 陸上自衛隊の現状と将来の展望
平 20.1	土木会会報第 11 号発行
平 20.6.22	第 23 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 特別講演：井上 宗迪（教授/デジタルハリウッド大学） 米国金融 愛国法 とは
平 21.6.19	第 24 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 第 12 代会長 君塚 栄治（20 期）他役員選出 特別講演：笹 幸恵（ジャーナリスト） 玉砕の島をめぐる今思うこと
平 22.12	土木会会報第 12 号発行
平 22.6.18	第 25 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 67 名）

	特別講演：岡田 奈緒子（准教授/山野美容芸術短期大学） ストレスに関連する症候群
平 23.6	第 26 回総会（書面会議） 第 13 代会長 林 一也（21 期）他役員選出
平 23.12	土木会会報第 13 号発行
平 24.6.15	第 26 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 68 名） 特別講演：大石 久和（特命教授/京都大学大学院経営管理研究部） 国土と日本人-なぜわれわれは安全保障理念を欠くのか-
平 25.6.15	第 27 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 61 名） 第 14 代会長 田邊 揮司良（24 期）他役員選出 特別講演：洗 堯（元東北方面総監） アジアの軍事戦略環境と知識戦略の展望 窪田征八郎氏（カンボジア能力構築支援教員） 工兵技術学習と P C の活用
平 25.12	土木会会報第 14 号発行
平 26.6.13	第 28 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 60 名） 特別講演：吉川 肇子（慶應義塾大学） リスク・コミュニケーションとは
平 27.6.12	第 29 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 66 名） 第 14 代会長 田邊 揮司良（24 期）再選他役員選出 特別講演：小島 海（RCF 復興支援チーム（元国際協力機構職員）） 復興支援の現場からー南スーダンから陸前高田へー
平 27.12	土木会会報第 15 号発行
平 28.6.10	第 30 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 64 名） 特別講演：泉 貴子（准教授/東北大学総災害科学国際研究所） 災害対応・復興への国際協力：国連の役割
平 29.6.16	第 31 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 66 名） 第 15 代会長 山崎 幸二（27 期）他役員選出 特別講演：溝口 郁夫（近現代史研究家） ビルマ独立を支えた野田毅参謀の南京での悲劇
平 29.12	土木会会報第 16 号発行
平 30.6.21	第 32 回総会・懇親会開催/アルカディア市ヶ谷（東京）（参加者 74 名）
令 1.6.14	第 33 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 90 名） 特別講演：國分良成（防衛大学校長） 中国をめぐる内外情勢ー日米中関係を中心に
令 1.12	土木会会報第 17 号発行
令 2.6	第 34 回総会（書面会議）
令 3.6	第 35 回総会（書面会議） 第 16 代会長 鶴居 正行（31 期）他役員選出
令 3.8	土木会会報第 18 号発行
令 4.6	第 36 回総会（書面会議）

令 5.6.30	第 37 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 97 名） 第 17 代会長 小林 弘樹（34 期）他役員選出 特別講演：山崎幸二（前統合幕僚長） 我が国を取り巻く安全保障環境と自衛隊統合運用について
令 5.9	土木会会報第 19 号発行

期別便り

第3期 「新型コロナウイルス感染体験記」

幹事 長江 光一

新型コロナウイルス感染症は、約3年半もの間、さまざまな苦難と混乱を世界中に及ぼしました。しかし、ここに来て令和5年5月5日、世界保健機関（WHO）は「緊急事態の宣言」（2年1月30日発表したもの）を終了すると発表し、連動した形でわが国でも5月8日、感染法上の2種からインフルエンザ並みの5種に引き下げられました。同期諸兄にはこの間無事でしたか。私も感染を免れて来ました。

ところが何と、私は正に上記の感染防止措置が緩和されたそのタイミングで、感染してしまいました。考えてみますと、それに先立つ3月13日「マスク着用は個人の判断」となって私の気が緩み、それが悪かったようです。

5月11日に、余りにも体調が悪いので、さる病院の熱外来を受診したところ、陽性の判定を受けました。①厚生労働省による特例承認を受けたばかりの新型コロナウイルス感染症の治療薬「ラゲブリオカプセル 200mg」5日分、②のど等の炎症と咳や痰等を鎮める薬2種類を7日分の投薬を受け、指示どおり服用しましたら、ほとんどよくなりました。特例承認の治療薬は他にも1種あり、国産の緊急承認のものもようやく出来たそうです。

世界的な大流行であるパンデミックは終わっておらず、油断は出来ませんが、高齢者でもインフルエンザ並みに早期健康回復できる有難い時代が来たことに感謝した次第です。

第4期 「九大土木と防大土木とのつながり」

幹事 石川 信隆

私は1963年4月、第9施設大隊（八戸）から陸幕の部外研修制度で九大土木へ派遣されました（大学院修士課程）。受験前のある日、防大鷹部屋福平教授（前九大教授）の紹介状を持って九大村上主任教授にご挨拶に伺い、「この度、九大受験を命じられた石川です」と言いましたら、「君は命令で勉強するのか」と言われ、冷や汗をかいたことを思い出します。

東北の薄どんよりした空から博多の明るい街に移って心が弾み、夏休みに友人と共に博多の祭り「山笠」1週間にわたって担ぎました。両親が10月ごろ博多に来て、担当の山崎徳也教授に面会した折、「石川は博多の街ばかり研究して、肝心の構造力学の方は全然研究していない」と叱られ、それ以来、心を入れ替えて毎日弁当を2つ持って終電まで研究に打ち込みました。

1969年4月UC（Uniform から Civil へ）転換して防大講師に着任、2003年3月退官まで34年間構造力学の教育・研究に専念しました。その間、九大土木からの博士号取得者は、三原徹治（22期）、高橋芳彦（24期）、園田佳巨（当時防大助手）、星野辰雄（29期）、小林一隆（日本サミコン）、生駒信康（シバタ工業）、圓林栄喜（35期）、長濱貴志（36期）、原田耕司（西松建設）、本山泰之（32期防大航空助手）などです。退官後も西本安志（シバタ工業）、栗木茂幸（39期）、上林勝敏（39期）、竹本憲介（40期）、久保雄保（41期）、小林憲治（46期）、深澤仁（47期）などが博士号取得で大変お世話になりました。一方、九大から防大へ教官として黒田一郎教授、防大から九大へ園田佳巨教授（現九大副学長）や梶田幸秀准教授（前防大助手）が移られました。最近も砂防構造物のテーマで嶋丈示氏（砂防・地すべり技術センター）、国領ひろし氏（日鉄建材）がそれぞれ九大から博士号を授与していただきました。また今年から永井学生（64期）が九大修士課程に入学したそうです。

現在防大には博士課程（後期課程）がありますが、当時は他大学（九大以外に東工大、山口大、神戸大、筑波大およびモナッシュ大、コロラド大など）に博士号取得をお願いに行くしかありませんでした。

「すべての営みには時がある。」私が九大土木に入学して以来、今年（2023年）でちょうど60年になります。主として防大構造系の学生たちや社会人が九大土木（特に太田教授、彦坂教授、大塚教授、日野教授、園田教授など）にお世話になったご縁とご厚意を振り返る時、感謝の言葉しかありません。

第5期 「総員33名事故22名現役11名」

幹事 山口 忠恵

我々5期土木は昭和36年3月に防大を卒業、人数は33名。

それから60年余、令和5年には在世者11名になってしまった。

それぞれが個性豊かでしぶとい面々だ。

それぞれいくつかの疾患を持ち、中には既に戒名までもっている準備周到型の者もいるが皆な気持ちは元気だ。

コロナが明けたことだし土木と施設科出身の防大5期生の会を東京で今秋再会を予定した。さて何人集まるか？

第6期 「JR横須賀駅 駅舎」

幹事 土屋 洋

私の実家は東海道沿線の大磯にあるので防大生時代は月に一回の特外日には実家との往復に横須賀駅を利用していました。昨年久しぶりに横須賀を訪れた際、横須賀駅構内は諸設備が防大時代に比べ現代に相応するよう整えられていましたが駅舎は当時と変わっていないことに嬉しく思いました。現在の駅舎は昭和十五年に三代目として建替えられ八十年の年月を経ておりますがその間、帝国海軍鎮守府の繁栄、そして敗戦、米海軍の進駐、海上自衛隊地方総監部の創設、遙か小原台に防大開校等横須賀の歴史を見続けてきたのです。横須賀駅の最大の特徴は改札口から乗車口まで階段の昇降なしに平面的に利用出来ることです。これは明治時代に海軍鎮守府建設のため膨大な資材の輸送のためと云われています。

太平洋戦争時代には海軍工廠で航空母艦を何隻も建造され、その資材搬入にも大いに役立ってきたのです。近年、利便性と収益増大のため主要な鉄道駅で駅ビル建設が行われておりますが、横須賀駅は横須賀の表玄関として長い歴史を重んじ、その景観を保ち続けている姿に拍手を送りたい気持ちになりました。

第7期 「防大7期11班懇親会の終焉」

幹事 佐野 英良

20年ほど前、「知覧特攻平和会館」で「語り部」を務めている同期の川床君が上京したため、土木11班を主とした同期の有志が集まって懇親会を行いました。

この際、11班会を毎年11月に行うことが決まり、平成17年11月5日に「第1回防大7期11班懇親会をグランドヒル市ヶ谷において16名の参加を得て行いました。その後、持ち回りによる各幹事の努力により明治記念館で続けて来ましたが、コロナと高齢化に伴い継続が難しくなっていました。

今回、川床君の上京に伴い懇親会を計画しましたが参加者は数名に止まり誠に残念なことでありますが、これを機会に「防大7期11班懇親会」は行わないこととします。

山口賢介君が令和4年8月16日に逝去されました。彼は長崎県立西高校の後輩で大村駐屯地指令として故郷に錦を飾りました。防大に入校する為、同じ列車で上京したことを思い出します。ご冥福をお祈り申し上げます。

第8期 「期だより」

幹事 渡邊 正之

令和元年に入るや、コロナ禍で同窓会各種活動もことごとく中止となり、淋しい思いをしておりましたが、今年からボツボツ再開される行事も出て来るようになり嬉しく思っております。

我がハロー倶楽部（8期）も今年4月から恒例の昼食会を再開いたしました。

写真を添えてご紹介します。



第9期 「傘寿の峠を元気に通過」

幹事 久 義重

- 井上 昭治 満員の地獄めぐりの路線バス 席を譲らるイスラムの娘（こ）に
 臼井 敬輝 土木を生かした歴史研究として古墳を見て回っています。
 織田 壽雄 終活を するつもりもない記憶力 いつの間にやら減って居る
 川道 亮介 「花菖蒲の観たことの無い景色」が見られそうになりました。
 木暮 晃治 車の運転を止め、夫婦、足を頼りに楽しい日々を過ごしています。
 久保 善昭 腰痛慢性化でゴルフは休止、でも水泳とヨガで再起を期しています。
 古賀 光紀 地域に戻り家内と始めた高齢者福祉事業は整理しようと思っています。
 小橋 公 あちこちに 売地・空き家の我が団地 散歩する人 杖突く人も
 小森 重信 概ね体調良好で山野を楽しみ、少々のボランティア活動をしています。
 関 重信 毎年、歳と共に増えるのは、身体の痛い処と病院に行くことです。
 富石 寛 欲薄れ 仙人もどきの ボケ老人 それでも叫ぶ 憲法改正
 土師 詔三 今日も又、散歩出来れば、言うこと無し
 羽藤 忠和 コロナの影響で活動量が減ったが、病院通いもなく生活している。
 久 義重 昔受け取ったこのボール 次はどちらにパスすりゃあいいの？
 藤原 利將 人生の最終章を楽しく意義あるものにしたいな～！
 麓川 昭憲 八十路（やそじ）過ぎ、体（細胞）の老化を感じつつ、運動（スポーツ）継続、医者通
 い
 星野 晴彦 吹き矢・ボーリング等々家に籠らず体を動かす毎日を送っている。
 本保 忠顯 元気ハツラツでやってるよ。
 松田 奉洋 ウクライナ情報を気にしながらも、極平凡に暮らしている。
 松谷 清徳 身体の調子の良い時は、畑仕事、卓球、囲碁を楽しんでいます。
 山岸 敏男 わがつまの 世話やきのまと 子からわれ ひとり味方はふるさと山河
 山口 正夫 年齢相応の健康状態で、農作業、趣味、運動、ボランティアに活動中です。
 吉田 巖彦 最後に と思う免許更新試験で 痴ほう症でないことを確認
 立元 四郎 世界一周クルーズを、夢見る八十一翁

第10期 「傘寿のホームカミングデー」

幹事 松本 義弘

今年4月5日は、71期生の入校式にあわせた10期卒業生に対する『ホームカミングデー』でした。この催しも、本来なら毎年1期ずつでしたがコロナ禍の影響で一時期中止となったため、今年は10期と11期の二つの期が招待されました。全員に連絡したところ、防大近傍在住の岡村君が土木代表で懇親会に出席してくれました。ありがとうございました。

80歳前後となったこんにち、出席者のほとんどが関東圏在住者だったようでこの会の世話役・安部洋男君（電気専攻）から、お礼の手紙が届きましたので紹介します。

『久しぶりに同期生百人程が集まり、懐かしい顔を見ることができました。自分もそうだろうけど、皆変わったね。当日は予期しなかった京浜急行電鉄の人身事故の影響で、2割ほどの者が集合写真撮影には間に合いませんでしたが式典には全員出席出来ました。また横須賀市内での親睦会では、11期生とは別の会場で、懐かしさに満ち溢れた楽しい時間を持つことが出来ました。皆さんのご協力に感謝します』とのことでした。

11班（土木）の他の面々は、それぞれの環境の下、元気に過ごしています。

『健康寿命のあるうちに、今できることを楽しみましょう』

第11期 「令和5年を迎え想うこと」

幹事 岡村 壽久

令和5年度は猛威を振るった新型コロナもインフルエンザと同様の扱いとなり行動制限も解除され何もなかった様に自由に動ける日常となりましたが今年度土木会名簿の記載事項の確認を通して11期の諸兄の現況をあらためて承知することとなった。治まったとはいえ新型コロナの影響は多大であったと

再認識させられた。年齢のせいかも知れないが3年ほど家にこもっていたせいも急激に気力・体力が弱まった方が増えたように感じます。

又、デジタル化が推進される世の中、パソコンをやめる方が多く、メールで現況確認が難しくなっています。コロナも治まった今、体力・気力を復活させ益々の長寿に留意され百歳を目標に健康な毎日を過ごされるよう祈っております。

第12期 「雑感」

幹事 加登 文士

概報の6名に加えて、新たに中田正洋君、高橋忠彦君が鬼籍に入られました。改めて8名のご冥福とご親族様のご健康を祈念申し上げます。

2023年5月19～21日、G7広島サミットが開催されました。無事に乗り切れたのは全国の警察関係者を始め多数のご支援のおかげと開催責任者の言葉です。サミット前半は招待国も含めて世界の経済・政治課題が話題と報道されましたが、後半はゼレンスキー大統領が急遽来日され、専らロシアのウクライナ侵攻が議論となりました。原爆被爆と復興の様子を眼前にして、世界のリーダーは強烈な衝撃を受けたことと思われそうですが、平和への具体的な施策は特に見出せず、東西の分断がより鮮明になった一面も否めない状況でした。

同期の多くはすでに喜寿を通過して傘寿に届こうとしております。病を得て思うに任せない諸兄もぼちぼち出始めました。

まっとうな世界の平和を見て逝きたいと願いつつ、現実はやさしくないようでもあります。せめて自らの姿勢を正して、晩節を心身健やかに過ごしたいと念じております。同期諸兄と先輩・後輩の方々のご多幸をお祈り申し上げます。

第13期 「同窓会」

幹事 末包 昭彦

7月1日(土)、喜寿を祝って(?)高校の同窓会(高高40会)があり、100人近い同級生が高松に集いました。驚いたのは数の多さだけでなく、集まった同級生の約半数が県外、特に東京、大阪地域からの参加でした。私は、高松に帰るまで、東京の同窓会(東京玉翠会)の役員をしていたことや、コロナで同窓会が開けなかったこともあり、久しぶりの再会を心待ちにしていました。予想以上に、賑やかで楽しい会になり、時間が経つのも忘れてあちこちで話が弾んでいました。2次会も40名を超える同級生が参加し、3次会まで参加した私の帰宅は、当然のことですが午前さまでした。このような雰囲気の中で、年齢を忘れて昔に還り、元気をもらっていました。その気持ちは、毎年、この時期に状況を確認している土木の同期生と重なっていました。同期生に電話をしていると、いつの間にか昔に還り、私が元気をもらっているのです。電話での同窓会です。今年もそうでした。嬉しいことです。何時までも健康で、昔と変わらない元気な声を聞かせて欲しいものです。

第14期 「喜寿を間近にして思うこと」

幹事 渡邊 元旦

私たち防大14期生が希望に燃えて小原台を卒業したのは1970年です。それから53年経ち、それぞれがまもなく喜寿を迎える年齢になりました。

厚生労働省の2018年の資料によりますと、男性の平均寿命は81.25歳(因みに女性は87.32歳)、また平均余命は、70歳の年齢で15.84歳(女性は20.01歳)、80歳の年齢で9.06歳(女性は11.91歳)ということで、逐年伸びているとのこと。我が国では、還暦、古希、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿など長寿をお祝いするしきたりがあります。私も還暦、古希のお祝いをしてもらいましたが、私より高齢の皆さんが元気なこともあり、「長生きした!」という実感はありませんでした。

多くの同期生はいまでもボランティア、中には現役で頑張っています。「喜寿」をこれからの人生のワンステップと考え、これまで元気で来られたことに感謝し、これからも健康に気を付けながら毎日を過ごしていきたいと思えます。

第15期 「我々が第5大隊」

幹事 岩本 賢一

我々が「土木11班」の学生時代、第5大隊に起居していた。今は、4個大隊編制となり、第5大隊は消滅した。当時、第1大隊は陸士、第2大隊は海兵、第3大隊は国立大学、第4大隊は公立大学、そして第5大隊は私立大学と呼んでいた。本館からの離隔度から、次第に規律が緩む様を言っていたようだ。

しかしながら、課業行進、入浴・食事、外出等々、裏門を利用しない限り、一番「遠い」ハンディーを背負っていた。その借りを外出帰隊時に、返していた。「ショートカット」である。門限近く、正門から陸上競技場等を酔っているが駆け足で突っ切り、最短で帰隊する「快感」を味わっていた。時折、夜露で制服ズボンの裾や短靴が濡れていたり、蜘蛛の巣にやられていたが・・・。

これらの楽しい思い出を共有しつつ、現情勢下の現役・後輩らの活躍に対し、我々として為すべき策を思案している昨今である。

第16期 「半世紀前」

幹事 青波 健

卒業翌年の1973年(昭和48年)1月：ベトナム和平協定締結 2月：中国は東京に大使館開設、為替レート・1ドル=308円の固定相場制から変動相場制に移行。スタートは1ドル=277円 3月：ベトナムから米軍完全撤退 4月：ニューヨークのワールドトレードセンタービルがグランオープン 5月：スカイラブ計画としてスカイラブ1号打ち上げ 7月：日本赤軍による日航機ハイジャック(ドバイ)、資源エネルギー庁発足 8月：金大中事件 9月：長沼ナイキ訴訟において自衛隊違憲判決、チリでクーデター発生、日越国交樹立、田中首相とブレジネフ書記長と会談、日ソ共同声明、東西ドイツの国際連合加盟が承認 10月：第4次中東戦争勃発、OPEC加盟6カ国原油公示価格の引き上げ・減産・禁輸(オイルショック) 12月：三木武夫副総理がオイルショック打開のため中東8カ国歴訪、参議院で国民生活安定緊急措置法と石油需給適正化法の石油2法を可決、政府が石油緊急事態を宣言

第18期 「18期の皆様へ」

幹事 小山 悟

お元気ですか。長期に渡って猛威を振るった新型コロナも今年5月8日に「5種」移行になり、一安心ということになったと思います。私事で恐縮ですが、最近の私の関心事は「ロシアのウクライナ侵攻」になっています。日本とウクライナとは、地政学的にも随分違いますが、隣国の軍事大国から武力侵攻され、国土防衛のために戦っているウクライナの姿は、70歳を超えて、すっかり自衛隊時代を忘れていたのが、今回、実戦という形で甦った状態で、他人事とは思えません。このことに関心を持って、「何かをする」というのではないのですが、自分の気持ちに従って、人生の「期間限定のライフワーク」として、一般の報道情報だけの知識をたよりに、自分なりに「作戦と戦闘」を検討し、ウクライナの防衛作戦に注視していきたいと思っています。最後に、我々が若い時のように元気に活動できる「健康寿命」が、70歳代前半と聞き、心身ともに悔いのない人生となるよう「模索」していきたいと思っています。皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

第19期 「70代を迎えて」

幹事 長峰 克己

70歳を過ぎました。70歳は老化の分かれ道とも言われます。今を大切に過ごしていきましょう。それぞれの顔が思い浮かぶよう今回も同期全員から一言もらいました。

青木：久しぶりに杉村君と会い親睦を深めました。

姉崎：コロナ流行以来温泉巡りの楽しみを少し控えながら元気に過ごしております。

安彦：高齢者大学を卒業し、仲間とグランドゴルフ等を楽しんでいます。

幾田：地元貢献と月イチ講演聴講(都内)の生活です。

岩下：ポケモンを追って公園を巡り、健康とポケ防止に努めています。

久保：妻と二人、週5日スポーツジムで健康管理に努めています。地元自治会の体育委員ももう少し頑張ります。

黒木：階段の昇り降りに不安を感じ、思い切って一階に引っ越しました。
児玉：この一年で新たに始めたこと、日曜の料理当番。元気にしています。
斎藤：右半身麻痺、失語症でも前向き！70代はまだまだ若いこれからです！
坂田(正)：暇なときには山登りを楽しんでいます。
佐藤(憲)：防衛医大病院の建て替えに従事しています。
佐藤(久)：介護要らずの体づくりに励んでいます。
瀬戸山：70歳になっても東京都リーグのサッカーの試合に出ています。
傍島：土木の土は十と一（土木11班）をロずさみながら頑張っています。
杉村(高橋)：6月で、すべての仕事が終わりました。元気に過ごしております。
角南(井出)：海釣りとうオークで気分転換し大半は田畑の草取り等に汗を流す日々です。
寺島：コロナは「5類」に移行し「新たな日常」がスタートしましたが、日常生活はほとんど変化なしでコロナ前の日帰り温泉が懐かしいこの頃です。
永木：長年放置された竹林をノコとナタのみで整備すべく取り掛かりました。
永沼：3月に佐賀県庁勤務を退職し、野山や海の写真撮影に飛び回っています。
長峰：仕事少々、ピアノ教室やラジオ体操を通して地元知り合いもできてきました。
藤澤：70歳、週4日は救護施設で仕事、残り3日はボランティアで東奔西奔
用田：70代を元気に乗り越えましょう。
望月：今年の夏は北岳登山に挑戦です。
横島：健康第一、働くことが基本と思っています。
坂田(直)：相変わらず「晴孔雨読」（孔はゴルフ『孔球』から）です。
田中：意気軒昂に歩くを信条に、サックス、日本語教師を楽しんでいます。
渡井：土木と離れて国際政治経済の研究者をしています。

第20期 「近況・雑感」

幹事 西村 智聡

20期生の大半が今年古希を迎えます。コロナへの対応がようやく見直され、土木会員も含む同期生との懇親の機会も復活し始めました。久しぶりに対面で同期とやる一杯はやはり格別です。私個人は、今も土木・建設業界に携わって働いておりますが、会員の皆様ご承知の通り、ここ10年程の間、土木・建設関連技術はIT技術等の導入により測量・設計・施工等、いずれの分野でも目を見張る進歩を遂げております。昭和の頭ではついて行くのがなかなか大変ですが、夏の暑い1日、仲間と測量器材を担いで汗をかきかき小原台上と浦賀の間を往復した、レベル測量の実習を思い出す今日この頃です。途中の休憩時、仲間3人で「ビールにしようか」と迷いに迷った挙句、食べたアイスの美味しかったこと。そして、何故かどこかの大隊の小隊指導教官殿にその買い食いの現場を発見されたけれど、「アイスにつき無罪放免」となったこと、K君とM君は覚えているだろうか？

第21期

幹事 小野 博

新型コロナウイルスの影響でホームカミングデーも中止となり、計画していました同期会も実施できませんでした。しかし、コロナによる制限も少なくなり、やっと普段の生活がもどってきました。そこで前回お知らせした通り、多くの方が古希を迎える年の令和6年・秋に同期会を実施したいと考えています。久しぶりに多くの皆様と楽しい時を過ごせたらと思います。

実施につきまして何かご要望がありましたらお知らせください。

第22期 「同期土木会について」

幹事 厚芝 清

コロナ禍のため先読みができずに困惑しておりましたが、5類感染症への移行を受け、2015年度の還暦祭以来の再会を目論みたいと思います。

今回の名簿（身上）確認において、来春（2月末か3月頭の土曜日）、東京（グラヒル）での開催に約70%の参加意向を得ましたので、この方向で計画を立てて進めていきたいと思っています。ただし、ほと

んどが基礎疾患者の集りですから、万全を期して予防策を画策する所在です。

テーマは、前回提案を拡充し、①ウクライナ戦争から発展する台中紛争に絡む中国、ロシア及び北朝鮮との対峙国家安全保障戦略論、②今後の人生を如何に楽しみながら意義あるものにしていくかの方法論、そして③世代交代の進捗状況と課題など、多岐にわたる論点に結論のでないまま大いに語り合いたいと思います。

なお、開催要領に関しまして、実行可能な建設的なご意見提供の方、よろしく申し上げます。

第23期

本年度名簿担当係 峯岸 元紀

23期の皆様、ご無沙汰しております。

名簿確認（併せて安否確認）の際には、ご協力いただきありがとうございました。コロナ禍の中、皆様お元気そうで何よりです。残念ながらお二方とは連絡が取れませんでした。お元気にお過ごしのことと思います。我々23期も若手の高齢者となりました。まずは心身の健康が第一であり、十分な栄養補給と睡眠、適度の運動、そして人とのコミュニケーションが大事かと思えます。

私事ですが、昨年3月末日をもって某音楽大学の職員を定年退職しました。贅沢をしなければ年金だけで何とか生活できると思い、現在は家庭菜園、日曜大工など気ままに毎日サンデーの日を過ごしています。家庭菜園では、果実を種から育てることをモットーに、桃、柿、ブドウ、サクランボ、グレープフルーツ、シークワーサー、ゆずを育てています。桃、柿（渋柿）、ブドウは毎年実をつけます。終活にはまだ早いと思っていましたが、昨年末に義父が急逝したことで、そろそろ先のことを考えていかなければ（まずは荷物整理かな？）と思う今日この頃です。

さて、すでにご承知のことと思いますが、コロナの影響で延期になっていた23期のホームカミングデーが来年3月に開催されることになりました。小原台で同じ釜の飯を食った土木会はもとより校友会や中隊の皆様と再会できることを楽しみにしています。

第24期 「今年こそは！」

幹事 森 茂

今回も私が同期の皆さんの近況を確認させていただきました。ご協力ありがとうございました。私事で恐縮ですが、自衛隊退職後10年間務めた就職先をこの春退職しました。今回の確認作業で10名近くが私と同じようにこの1年の間に退職しましたとの連絡をいただきました。それぞれ長い間大変お疲れ様でした。全員が前期高齢者、介護保険サービス利用対象者となりましたが、私自身にはそのような実感がなく気持ち的にも今後新しいことにチャレンジできる楽しみの方が大きいです。きっと同じ心境の方が多くはないのでしょうか。今後の集まりではお互いの健康の相談だけではなく、趣味、活動等の話題に花を咲かせられればと思います。

毎年恒例の同期会も昨年は出席希望者が少なく中止となりしばらく開催できていませんが、今年こそは長坂君の幹事役を終わらせてあげられることを期待しています。

第25期 「ついにコロナ緊急事態宣言終了か！」

幹事 大内 元

今年も引き続き幹事として皆さんと連絡できる機会を得ました。引き続きよろしく申し上げます。

令和5年5月5日、WHOは、新型コロナウイルス感染症に関する「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」(PHEIC)の宣言を終了すると発表しましたが、依然として大きな脅威だと警告した。最高レベルの警戒にあたる緊急事態の宣言が2020年1月30日に出されてから、3年以上が経っています。

宣言の終了は、新型コロナウイルスのパンデミック終焉（しゅうえん）に向けた大きな一歩となるでしょうが、本当に長い期間となりましたね。

日本は、感染症法上の取り扱いを5類に変更する旨の決定がなされました。これを受けて、会社においても通常出勤体制に復帰し、ようやくFace to Faceでコミュニケーションがとりやすくなりました。今後とも懇親会の提案など、企画要望がありましたら、遠慮なく連絡してください。

また、来年、お話しできることを楽しみにしております。

第27期 「人とのつながりの大切さ」

幹事 大西 延昌

ラジオで、健康な骨の作り方を話していました。骨はカルシウムを取ればいいのではなく、常に刺激を与えることが大切で、飛んだりして骨に衝撃を与えることにより、骨の作る細胞が活性化するそうです。

この話を聞いて、父の介護を思い出しました。父は一人で生活をしていて、要支援でケアマネと連携し介護していましたが、あるとき、圧迫骨折で入院しました。入院は、コロナ化の影響で面会もなく、一人ベッドの上での生活がほとんどで、一か月後、退院となり、病院に迎えに行くと、何十年もたったみたいに老け、認知力も著しく低下していました。

聞くことには、人とのつながりが切れると、脳に刺激が少なくなり、老化が著しく進むことだそうです。

最近、妻と死別し、職場以外で会話することが少なくなり、脳への刺激が非常に少なくなっています。ボケず、かつ、体力を維持するため、同期とのつながりを大切にして、日々運動をし、心と体に刺激を与えていきたいと思います。

第28期 このごろ(その11)

幹事 林 恭之

コロナの騒ぎは何だったのか。と感じるこのごろです。私事で恐縮ですが、2020年に初めて当選した東京マラソンが中止・延期となり、2022年に3年ぶりの開催となったことで、還暦の年に完走することが出来ました。本年3月5日に防大同期全員が現役自衛官を卒業したタイミングで、28期期生会がグランドヒル市ヶ谷で開催されました。期生会に先立ち市ヶ谷駐屯地内の自衛隊殉職者慰霊碑で、これまでに訓練中の事故で殉職した生山君、逝去した松岡君、野瀬君のご冥福を旧知の土木及び陸自施設科の同期で祈りました。また、期生会の前日にはアルカディア市ヶ谷で4年ぶり2回目となる土木・施設科合同同期会を開催し、久しぶりに遠方の同期とも再会することが出来ました。今後も機会を捉えて同期会を計画したいと思います。6年後には28期がホームカミングデーとのこと、同期の皆さんが元気で再会できることを楽しみに、ご家族皆様のご多幸を祈念します。



第30期 「全員60歳を超えました」

幹事 米津 浩幸

令和5年度迎え、防大30期土木工学科のメンバーは、全員、還暦となる年齢を迎えることとなりました。メールで今回の名簿の整理を行い、返信をいただきましたが、防衛大を卒業して38年、陸海空の同期は一人減りましたが、どうやら、皆様、元気にやっているようです。

一昨年、名簿に関して同期と連絡をとる中で、「一度集まりたいね。」と言う返信がありました。また、「リモートでも、同期会をしようか。」と言う声も。

北海道から福岡まで、全国に散らばっている同期が一堂に会するのはなかなか難しいですが、リモートならばと考えています。

来年のこの通信欄で、リモートの様子を他の期の方々に報告できるよう、ちょっと頑張ろうかなと思っています。

この土木会の名簿整理は、1年に1回ですが、同期の様子を知るととても良い機会となっています。30期の皆様とリモートで酒を酌み交わせること。これが令和5年の目標です。

第31期

幹事 伊藤 一雄

31期も全員自衛隊を退職し、新たな場所で活躍している。人生百年時代と言われていることを考えると、まだまだ先は長い。今までのように退職・再就職という考えは通用しなくなっているように思う。まだまだキャリア充実を目指して、より良い人生を送れるように努力するとともに、社会に貢献できれば良いと考えている。コロナも5類に移行し、社会も通常に戻ってきている。

久しぶりに9班の仲間と旧交を温める機会が持てればと考えている今日この頃である。皆が健康で楽しい人生を過ごせることを祈っています。

第32期

幹事 藤原 修

皆さん元気ですか。最後のG pが令和4年度末に退官し、遂に現職は梶元君一人となりました。がんばれ！さて退官に前後はありましたが、まさか元自衛官と名乗る日が本当に来るとは誰も想像だにしていまませんでしたね。皆さん、今更ながら「自衛隊は最高！」と言っています。私的には人柄・キャラクターから見て、新たな勤務先が全く予想もつかなかった人もいて、ただただ驚いています。

結びに、皆、それぞれの縁ある地で全員息災に新生活を始めましたよ。自衛隊に感謝するとともに、もう一花咲かせましょうか。

追伸 皆さんが昔をしばし思い出し、また一心に新人生で頑張れるよう、退官前に私が撮影した横須賀近景をアップします。



第35期 近況連絡

幹事 金子 操

皆さん、お元気でしょうか。今回は、連絡をとって定年前の業務管理教育に参加していて不在という話を度々耳にしました。

また、まもなく定年を迎える人もいます。

先輩達のお話をうかがうと現役の内に、しっかり病気を完治しておいた方が良いとのアドバイスをいただいております、連絡でも時折そういった話をするようになりました。

全国色々なところに居住しており、中々顔を合わせる機会がありませんが、健康第一でこれからも生活していきましょう。

第36期 「第2の人生スタート」

幹事 北川 聡

令和5年度の幹事の順番となり、事務局から送られてきた名簿の修正作業を行いました。

卒業して以来一度も連絡を取っていなかった同期もおりましたが、電話口の声には聞き覚え確かな声に懐かしさを感じ一人うれしくなっておりました。

昨年11月には井村君が定年退官をされ、第2の人生をスタートしております。逐次我々も後を追いかけるようになる歳となってまいりました。井村君のアドバイスは、援護担当者から嫌われないように

低姿勢で調整することをご教授いただきました。小生も来年の7月に定年退官となりますのでこれからの就職援護の支援を受ける際に心に留めていい職を手に入れたいと考えています。

どうぞ皆さま、健康に留意され、それぞれの場所で美しい花をお咲かせください。

第38期 「来年で卒業から30年」

幹事 黒木 勇人

前回の期別日より、坂本君にお願いして書いてもらいました。前回の文書には「早いもので四半世紀」と書き出しにありましたが、来年は卒業してからもう30年となります。坂本君のいうとおり、確かに気持ちはそのまま体中にガタが来つつあり、具体的には五十肩、痛風、足底筋膜炎とほぼ治りそうにない病名をつけられたりしております。加えて、最近、特に目が見えない！このようなPC作業する時は度数を落とした専用の眼鏡に変えないと手元がぼやけるようになってきました。頭の上に眼鏡をかける仕草を昔は嘘くさいと思っていましたが、当事者になるとこの方法が一番効率がいいことがわかりました。とこのように経年劣化に悶えておりますが、それでも現場での勤務をさせていただいておりますので定期的に運動をしていてなんとか体調を維持できているような状況です。

期別幹事をしている関係上、毎年2回は皆さんに連絡をさせていただいており、皆さんの近況を聞きつつ、ついつい話し込んだりと楽しみにしておりますので今後もよろしくお祈りします。来年は節目の年なので懇親会でもと思いましたが、広範囲に散らばりすぎているので何かできそうでしたらメールで連絡します。最後に多分この期別だよりの文章作成依頼は一巡したと思いますので次は名簿順で尼子君文章のほうをよろしくお祈りします。

第43期 「近況報告」

幹事 天内 明弘

43期の皆さん、元気に任務・職務に励んでいるでしょうか。私は3月から市ヶ谷勤務となりました。部隊と別れるさびしさがありましたが、同期との再会に心が安らいでいます。そこで今回は市ヶ谷同期からのコメントを頂きましたのでご紹介します。

石川（陸）：陸幕で陸自の公害防止対策、気候変動対策等、日本国のみならず地球を守る業務に取り組んでいます。

角田（陸）：現在防衛装備庁のプロジェクト管理部において勤務しています。馴染みのない職場ですが元気にしております。皆様のご活躍を祈念申し上げます。

坂口（陸）：ここ10年間は建設行政正面で陸幕施設課等において陸自の施設整備等を担任し、部隊・隊員の生活・勤務環境基盤の整備・改善を推進中です。

坂本（陸）：職種施設科ではないのですが、普く通じる土木工学の知識は様々な研究開発の勤務に役立っています。（しかし今の主担は電磁波）

江畑（海）：統幕で指揮通信システム、及び宇サ電領域の防衛力整備に係る業務を担当しております。土木だけでなく船乗りとしても専門違いですが、やりがいを持って取り組んでいます。

鎌田（空）：昨年末の安保3文書を受け、統合防空ミサイル防衛の実現に向けた業務を担当しております。

第44期 ストレス低減

幹事 坊原 尚記

44期の土木9班の皆様、御無沙汰しています。幹事の坊原です。現在は、福井県にある小さな鯖江駐屯地の司令を拝命しています。

さて昨年、我々土木9班の仲間である山野君が逝去されました。職務において、大変なストレスから体調を崩し、闘病生活を続けられていました。元気な我々もその様な大変なストレスがかかると身体に極めて影響を及ぼす、「不惑」と「知命」の間の年代にいることを改めて痛感させられました。業務の特性上、ストレスフリーになることはほぼありませんので、いかにこのストレスを低減させるかが今後の人生に大きく影響してくるものと考えています。多忙な業務や家庭サービスの合間を縫って、各自のライフスタイルにあった持続できるストレス解消法を見つけられてはいかかでしょうか？また、前向きな気

持ちを持ち続けることもストレスを低減することにつながるかもしれません。

いずれにせよ、20年、10年前と比べて身体の衰えは致し方ないことであるので、少しでもメンタルの持続が健康の秘訣であると言えます。家族のものでもある自分の身体を引き続き大事にしましょう。

第45期 「同期」

幹事 辻 一

令和5年度に入り、早3ヶ月が過ぎようとしていますが、4月には宮古島において陸自ヘリコプターUH60JAがレーダーから消失し、約2ヶ月にわたり捜索・救難にあたり、北朝鮮による衛生と称する弾道ミサイルの発射への対応を行う等、南西諸島における自衛隊に対する社会的な関心が、これまでにない時期的密度で集まる状況となりました。

また、宮古島におけるレーダー消失したUH60JAには、45期の同期も搭乗しており、同期を在職中に失う結果となり、自衛官という職の大変さを実感するとともに、同期という心の絆の大切さを改めて実感した次第です。宮古島において殉職された今井君のご冥福を、心よりお祈りいたします。

第46期

幹事 高橋 祐

46期の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。コロナも5類へと移行し徐々に今までの生活を取り戻しているかと思います。その中で、職業も軍種も勤務先も補職も異なっていますが、土木工学科で学んだ事を如何なく発揮して活躍しているものと思います。(個人的には、もう少しまじめに勉強していればと反省していますが・・・)

さて、月日の流れは早いもので、ついに我々の期もホームビジットデー(卒業20周年目の開校祭に防衛大学を訪問し、旧交を深めるとともに、同期の結束を再確認するもの。)が開催されることとなりました。その中でみんな元気に顔を合わせることができればと思います。(本執筆は6月)9班万歳!!次の幹事は、百武君です。

第47期 「卒業してから20年が経過して」

幹事 坂本 崇

平成15年(2003年)3月に防大を卒業して20年が経過しました。

その間、自衛隊を退職したものもありますが、それぞれのところで頑張っているところです。

平成29年3月から約2年間、防大で第3大隊次席指導教官をしていた際は、3大隊が63、64、65期の建設環境工学科の学生が配置されており、後輩が日々勉学に努力していたことも懐かしくなっています。(付指が終わってからも4年がたち、5号館がなくなったりしていて、自分たちのときにあったものがだんだん減っていることの悲しさもできました。)

中年になり、学生だったころのような若さはなくなりましたが、これからも、様々なところで頑張ってまいります。

PS. 福井県に令和5年3月異動となり、これまで勤務してきた三大都市圏から違うところとなり、まだまだ慣れていません。(イオンがない、民放が2局しかない、大きな事件も起きないので県内ニュースは今日の吉田正尚と令和6年春の北陸新幹線延伸が主体とか、平和な日々が続いています。

第48期 「大事なもの」

幹事 日高 健太郎

防大を卒業して48期は今年で20年が経過することとなりますが、皆元気に活躍されていると伺っています。目の前の仕事に追われることも多々ありますが、心の拠り所を大事にしてもらいたいと思います。

私事で恐縮ですが、2022年9月から防衛研究所に入所させていただき、家族と過ごす時間が非常に多い1年をいただきました。私は3人の子供がおりますが、子供が一生懸命に野球をする姿、勉強する姿、たくさん笑って食べて寝る姿、どれもかけがえのないものであり、このために仕事しているも同然です。時間の比重はともかくとして、家庭と仕事の両立をこれからも達成していかなければならないと感じる次第です。

もう一つの拠り所は、旧友との再会です。忙しい状況にあっても防大の同期やかつての職場の同僚と会い、辛かった時代や切磋琢磨した時代を思い出すことは大きな励みになります。皆様の心の拠り所は如何でしょうか？

残りの自衛官生活はあと15年ほど。しかし自衛官生活が終わっても第2、第3の生活を考えないといけない時代です。どうか皆様、仕事だけでなく心の拠り所を大事にして今後もお過ごし下さい。

第49期 「健康第一 パート2」

幹事 鷲原 敦

同期の皆さん、いつも土木会名簿内容の確認の際はすぐ返信してくれてありがとうございます。同期の皆さんとのこの小さいやり取りが非常に励みになっています。

さて、前回の投稿でも健康第一と題して厄年について書かせてもらいましたが、後厄の今年、様々な健康に関わる不具合が出てきたので注意喚起を兼ねて共有させてもらいたと思います。第一に高血圧。ついに薬を飲みだすことに。慣れてしまえばどおってことない感じですが、もう健康体ではないんだなと感じています。第二は、虫垂炎で手術、入院を経験。手術後に思い通りに体を動かすことができず改めて健康の大切さを感じました。そして第三に虫歯。食事中に歯がかけて、通院したら虫歯が原因と診察され中学生以来の治療。この半年で3つも重なり、次は何が起こるんだと危機感を持っています。

「健康に勝る幸福なし」という言葉がありますが、体調を崩してから気づいたのでは遅いこともあります。もうそういう年齢なんだと自覚して、日々を大切に過ごしていきましょう。

第51期 「51期幹事に上番して」

幹事 稲村 大吾

51期の皆さん、驚きとは思いますが、この度51期幹事に上番しました。

先日実施された土木学会において、51期の前幹事は退職されて、名簿の更新が滞っていることを知りました。この現状を受けて、誰かがやらなくてはいけないと思い、幹事上番について快諾させていただきました。今後、いろいろと不手際があると思いますが、ご協力のほどよろしくお願いします。ちなみに2年周期で交代していきますので、次は宮田が上番する予定です。(未調整ですが、親友なので信じています。)

51期の皆さんが、今どこで何をしているのか、ほとんどわかりませんが、防大での3年間を同じ学部で過ごしたというせつかくの一つの繋がりのため、この繋がりに関しても大事にさせていただき、たまに集まって馬鹿話をできたらいいなと考えています。陸海空自のみならず、退職されて、民間企業に勤めている方や家庭に入っている方もいると伺っているので、いろいろな話が聞けて面白いと思います。2年以内に同窓会をするので、連絡待っててください。

それでは、会える日を楽しみにしています。

第55期 「55期幹事として思うこと」

幹事 澤田 京介

建設環境工学科を卒業して、12年が経過した。これまで55期幹事として、1年に2回、各会員の足跡を辿って参りました。卒業直後は、ほぼ全員が小部隊指揮官に上番していたため転属の機会も少なく名簿の編集作業は正直、楽でした。しかし、年月を重ねるごとに、私を含めて転属の機会が多く、役職も多岐に及ぶため、掌握が困難な時もありました。特に、連絡が途絶えてしまう、あるいは退職したであろう会員への連絡はとて難航しました。

他方、これまで55期会員は、退職7名、留学生2名、不明2名、合計11名の会員が離会しました。離会した会員は、名簿修正作業の所要が無くなるため、作業量自体は少なくなったかもしれませんが。1年に2回ある修正作業は、正直大変だなあ、と思いつつ作業を実施していると、寂しくなる時があります。私も自衛官としていつまで勤務するかはわかりませんが、残された会員として微力ながら土木会の活動を支援できれば幸甚です。

第57期 「土木工学が教えてくれること」

幹事 小原 史稔

57期土木会幹事、陸上自衛隊施設科に所属しております、小原です。今回若輩者ではありますが、施設科と土木工学の親和性について所感を綴りたいと思います。釈迦に説法ではありますが、お許してください。さて、土木工学ではありますが、社会基盤を整備することにより社会・経済活動を支える学問であり、施設科は（小官の私見ですが）作戦環境を整備することにより諸職種の作戦遂行を可能とする職種であります。いずれもいわば活動の土台を作り上げるものであり、強い親和性があります。現在の日本は、高齢化社会やインフラの老朽化等の内的要因に加え、戦後最悪とも言われる戦略環境により様々な課題に直面しています。かかる状況を改善できるのは学問の分野では土木工学であり、陸上自衛隊では施設科であると思います。土木工学を学んだ施設科の隊員として、作戦環境を整え、皆様の活躍の土台を築いていきたいと思っています。

第58期 「58期土木民に寄せて」

幹事 永松 秀章

皆様、いかがお過ごしでしょうか。58期幹事の永松と申します。現在は富士学校普通科部で戦術教官として勤務しております。

防大を卒業して約10年が経ち、建設環境工学科の同期と会う機会も減ってしまいましたが、昨年行われた宮城君の結婚式で久しぶりに同期達と再会することができました。

部隊の第一線で頑張っている者、研究の道に進んだ者、民間企業に就職した者等様々ですが、これからもそれぞれの分野で頑張っていきましょう。また会えることを心待ちにしています。

第60期 「みそじ」

幹事 和泉 雄也

チコちゃんに叱られるで、なぜ大人は時間が経つことが早く感じて、子供は時間が経つのが遅く感じるかをやっていました。大人になるほど人生にときめきを感じなくなるからだそうです。確かに小学生のときは、初めての授業、初めてのプール、初めてのキャンプ、初めてのスキー、初めての花見等のすべてが新鮮に感じた気がします。ちなみに僕は、初めてのプールが楽しみ過ぎて興奮したせいで、鼻血を出して授業に参加できなかった記憶があります。

自分は今年30歳になり、今でもすべてを新鮮に感じてますが、なぜか時間が経つのが早く感じます。60期の皆さん、これから人の上に立つものとして、部下隊員に「ポーっと生きてんじゃね〜」って言われないように日々の時間を大切に頑張っていきましょう。

第61期 「同期会の予鈴」

幹事 福井 智大

令和5年度は、陸上自衛官のAOC入校年であり、多くの方が関東圏に集合するため、同期会を催すには打って付けの年でしたが、力及ばず、すいませんということになりそうです。幹事の私が令和7年度までは横須賀にいますので、それまでにしっかりと力を蓄えて、一度東京あたりで盛大な同期会を企画したいと思います。遠方からの参加者のことを考えると、交通費が比較的安く、台風や雪の影響がなさそうな10、11月頃がベストシーズンではないかと考えています。自衛隊内の活動だけでなく、民間企業での経験やプライベートなど、面白エピソード盛りだくさんの会になることと思いますので、奮ってご参加ください（家族交流も大歓迎ですのご家族も一緒にいかがでしょうか）。

細部は、力を蓄え次第、連絡します。皆さんはそれぞれの持ち場でネタを蓄えておいてください。楽しみにしています。

第62期 「62期の皆さんへ」

幹事 内山 諒史

62期の皆さんお元気でしょうか。卒業して約5年が経過し、部隊や企業等にも慣れ、全国各地で職務に励んでいることと思います。現場と上司をつなぐ中間管理職のような立ち位置で、日々大変かと思いますが体に気をつけて頑張っていきましょう。

ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり、業務や私生活への制限で不満が溜まることも多かったと思いますが、今年から徐々に緩和され明るい兆しになりそうです。これからは、中央での勤務も少しずつ増えていくかと思います。また、みんなと再会できる機会を楽しみにしています。

第63期 「若かりし時の記憶」

幹事 神田 竜弥

皆さん、ご無沙汰しております。各部隊で勤務されている皆さんは、初級幹部として扱われなくなり、本部勤務等で激務に追われているかと思います。私に関しては、コロナ陽性者の勤務代行から全隊員の前での余興といった幅広い職務を遂行しております。さて、私の連隊においては年に1度、防大生の部隊実習を実施しております。その中には、建設環境工学科の防大生もいましたので、少々話をしているうちに、防大の時の記憶がよみがえってきました。皆さん、日々の業務によって防大の時の若さで何でもできていたことを忘れてないでしょうか。あの時、あの時代のことを思い出して頑張ってください。ちなみに私は最近、上司からそろそろノリと勢いだけで仕事するのは辞めろと言われました。

第64期

幹事 落合 恒太

皆さん、ご無沙汰しております。いかがお過ごしでしょうか。今回、期幹事として名簿の修正のため連絡を差し上げましたが、同期の近況を知る良い機会となりました。訓練中の者、別の道で頑張る者、中にはレンジャーの想定中という人もいて、場所は違えど、頑張る同期の宴を知って励まされた気持ちになりました。

コロナの制約も緩和され、以前よりも飲み会の回数も増えてきました。異動や入校で近くに寄った時は、防大の思い出から職場での話まで色々な話ができることを楽しみにしています。

これを読む頃には64期も2尉の階級をつけていると思います。初級幹部の身ではありますが、階級に見合う職責を果たせるようにそれぞれの道で精進していきましょう。

精～強♪土木♪建設環境工学科♪

第65期 「後悔していること」

幹事 大野 峻矢

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

私は、警務科幹部として勤務しており、もう少しで結婚します。

さて、題目のとおり私の後悔していることというのは、警務科を選択してしまったことです。建設環境工学科を卒業した身としては、普通科か施設科が良かったのかもしれないし、私もそれを望んでいたはずなのですが、いつの間にか警務科を選択していました。

何故、後悔しているのかというとどうやら警務科は離婚率が高いらしいのです。

幸せな将来を夢見る私としては、是非とも職種変換したいですが、いつまで弱音を吐いても仕方ありません。現在は、警務科で懸命に働いております。

皆さまも嫌なことだらけかと思いますが、現状の方がマシだと自分に言い聞かせながら頑張ってください。

第66期 「66期のみんなへ」

幹事 阿部 翼

皆さん、お元気でしょうか。

わたしはとても元気で、相変わらず大好きな筋トレを続けています。また、最近は施設科BOC入校して以来、再び土木に触れる機会も増え、土木の素晴らしさを再認識しています。

さて、コロナも落ちついて、また皆で再会できる機会があれば良いですね。それまで、それぞれの道で頑張りましょう。精強土木！

私が建設環境工学へと進んだことに悔いはなく、多くのことを教官の皆様から学ばせていただいた。しかし、そんな中でもたくさんの苦悩があった。その苦悩を乗り越えることができたのは、67期建設環境工科の同期のみんながいたからである。特に同期の仲間がいてくれて良かったと思うエピソードがある。それはいつものように夜遅くまで卒業研究のためにデータの整理を行っていたときのことである。たくさんの地震動に関するデータを前に疲弊しているところに、ある1人の学生が研究室に入ってきたのである。その人は坂本学生であった。坂本学生もまた卒業研究を夜遅くまでこなしていた学生の1人であった。「息抜きに少ししゃべらないか？」と言われ、7～8時間データと向き合っていた私にとっては少しではあったが救いの時間であった。

坂本学生に限らず、他にも何人かの学生が研究室に来ては励ましの声を掛けてくれた。そんな私を支えてくれた同期、仲間達をこの67期幹事という役職で恩返ししていきたい。

決算報告

令和4年度および令和5年度防衛大学校土木会総会におきまして、令和3年度および令和4年度の決算報告がなされ下記のとおり承認されました。

1 令和3年度

収入の部		支出の部	
収入の部詳細		支出の部詳細	
・ 終身会費	340,000 円	・ 通信連絡費用	18,109 円
・ 簡易名簿代	1,000 円	・ 名簿更新費	168,643 円
		・ 会報作成費	44,638 円
		・ 事務消耗品費	4,962 円
		・ 学生表彰副賞費	11,550 円
収入小計	341,000 円	支出小計	247,902 円
令和2年度からの繰越	2,734,609 円	令和4年度へ繰越	2,827,707 円
合 計	3,075,609 円	合 計	3,075,609 円

2 令和4年度

収入の部		支出の部	
収入の部詳細		支出の部詳細	
・ 終身会費	260,000 円	・ 通信連絡費	13,740 円
・ 簡易名簿代	1,000 円	・ 名簿更新費	163,097 円
		・ 事務消耗品費	5,018 円
		・ 学生表彰副賞費	18,065 円
当年度収入合計	261,000 円	当年度支出合計	199,920 円
令和3年度からの繰越	2,827,707 円	令和5年度へ繰越	2,888,787 円
合 計	3,088,707 円	合 計	3,088,707 円

防衛大学校土木会会則

昭和 61 年 12 月 6 日制定
昭和 63 年 12 月 2 日改正
平成 25 年 12 月 13 日改正
令和 元年 6 月 14 日改正
令和 4 年 6 月 20 日改正

第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 本会を、防衛大学校土木会と称する。

(事務局)

第 2 条 本会を、防衛大学校建設環境工学科（神奈川県横須賀市走水 1-10-20）内におく。

第 2 章 目的および事業

(目的)

第 3 条 本会は、会員相互の親睦を深め会員の社会的活動の向上を図ることを目的とする。

(事業および活動)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業および活動を行う。

- 1 会員相互の親睦に関する事業
- 2 会員名簿の管理
- 3 その他前条の目的を達成するため必要と認める事業

第 3 章 会員

(種別)

第 5 条 本会の会員は、次の 2 種類とする。

- 1 正会員 防衛大学校建設環境工学科（旧土木工学専攻、本科、研究科）卒業生
および在学生研修生、土木工学教室の現旧教職員
- 2 賛助会員 入会を希望し役員会で承認された者

(会費の納入義務)

第 6 条 会員は、別に定める会費を支払うものとする。

第 4 章 役員

(種別)

第 7 条 本会に、次の役員を置く。

- 1 会長
- 2 副会長
- 3 理事
- 4 会計監事
- 5 期生会等幹事

(員数および選任方法)

第8条 前条の役員は、次の方法で選任する。

- 1 会長 正会員の中から総会で1名を選任する。
- 2 副会長 正会員の中から総会で2名を選任する。
- 3 理事 正会員の中から会長が若干名を指名する。
- 4 会計監事 正会員の中から総会で1名を選任する。
- 5 期生会等幹事 期生会等から各1名を会長が指名する。

(職務)

第9条 役員の職務は次の通り定める。

- 1 会長は、本会を代表して会務を統轄し、会の業務の運営に任ずる。
- 2 副会長は、会長を補佐して会の運営にあたり、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、会長、副会長を補佐して会の業務の運営に当たる。
- 4 会計監事は、全会員に代わり会の財務を随時監査し、総会において監査報告を行なう。
- 5 期生会等幹事は、各期生会等の代表として本会との連絡にあたり、期生会員等の移動に関して事務局に報告するとともに、必要に応じて会長の諮問に応える。

(任期)

- 第10条 会長、副会長、理事、会計監事の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 2 期生会等の幹事の任期は2年とし、再任および重任を妨げない。

第5章 役員会

(構成)

第11条 役員会は、会長、副会長、理事をもって構成する。

- 2 会計監事は役員会に出席することができる。

(議決)

第12条 役員会の議決は、役員の過半数をもってこれを決するものとする。

(開催)

第13条 役員会は、原則として年1回開催する。

(権能)

第14条 役員会は、会則改正、予算および決算、会費に関する事項ならび事務局に検討を命ずべき事項を議決する。

第6章 事務局

(構成)

第15条 事務局長は、会長が防衛大学校教職員である会員の中から選任する。

- 2 事務局員は、事務局長が会員の中から指名する。

(権能)

第16条 事務局は、会長の命を受け次の事務を行う。

- 1 会員名簿の作成
- 2 総会開催に関する事項
- 3 会計業務に関する事項
- 4 役員会から検討を命ぜられた事項
- 5 その他会長から命ぜられた事項

第7章 総会

(開催)

第17条 総会は、原則として年1回開催するものとし、会長が招集する。

- 2 総会の議長は、会長がこれにあたる。

(承認事項)

第18条 次の事項は、これを総会に提出しその承認を受けるものとする。

- (1) 会則の改正
 - (2) 会費に関する事項
 - (3) 予算および決算
 - (4) 事業計画および報告
- 2 1項の承認は、総会出席者の過半数をもってこれを決する。
 - 3 役員会から総会までの間、必要に応じ暫定予算および暫定事業計画を設ける。

第8章 会計

(経費)

第19条 本会の経費は、会費および寄付金その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付則：1 本会則は、昭和63年12月2日から施行する。

- 2 会費は、終身会費制とし、その額を10,000円とする。

土木会役員等 (令和5年9月現在)

役員

会 長	小林 弘樹 (34期)					
副 会 長	圓林 栄喜 (35期)			仲西 勝典 (37期)		
会計監事	勇 玲菜 (59期)					
理 事	佐野 博昭 (27期)		別府 万寿博 (36期)			
	篠田 昌弘 (教官)		深和 岳人 (技官)			
	三輪 幸治 (研究科 44期)					
期幹事	2期 志方 俊之	25期 大内 元	48期 日高健太郎	3期 長江 光一	26期 西村 征史	49期 鷺原 敦
	4期 石川 信隆	27期 大西 延昌	50期 山内 哲也	5期 山口 忠憲	28期 林 恭之	51期 稲村 大吾
	6期 土屋 洋	29期 平栗 浩一	52期 小谷 稔	7期 佐野 英良	30期 米津 浩幸	53期 大河内達彦
	8期 渡邊 正之	31期 伊藤 一雄	54期 高村 真史	9期 久 義重	32期 藤原 修	55期 澤田 京介
	10期 松本 義弘	33期 濱平 信一	56期 岩根 利浩	11期 岡村 壽久	34期 松井 正伸	57期 小原 史稔
	12期 加登 文士	35期 金子 操	58期 永松 秀章	13期 末包 昭彦	36期 北川 聡	59期 嶋川 理
	14期 渡邊 元旦	37期 松澤 吉広	60期 和泉 雄也	15期 岩本 賢一	38期 黒木 勇人	61期 福井 智大
	16期 青波 健	39期 黒沼 孝治	62期 内山 諒史	17期 市川 菊代	40期 藤田 宗徳	63期 神田 竜弥
	18期 小山 悟	41期 下山 一貴	64期 落合 恒太	19期 長峰 克己	42期 白石 博文	65期 大野 峻矢
	20期 西村 智聡	43期 天内 明弘	66期 阿部 翼	21期 小野 博	44期 坊原 尚記	67期 鈴木 涼平
	22期 厚芝 清	45期 辻 一		23期 香月 智	46期 高橋 祐	
	24期 森 茂	47期 坂本 崇				

事務局

事務局長	市野 宏嘉 (46期)					
企画幹事	堀口 俊行 (50期)					
渉 外	福井 智大 (61期)					
会 計	森 広毅 (62期)					
事務局員	水落 信恵 (事務)	犬井 将堯 (61期)	内山 諒史 (62期)	峯 好古 (62期)	栗田悠太郎 (62期)	寺澤 拓真 (63期)
	宮原 邑太 (63期)	齋藤 和樹 (63期)	森藤 優一 (63期)	寺本 拓 (63期)	加藤 哲志 (64期)	平賀 向陽 (64期)

《 編集後記 》

- 防衛大学校土木会会報第 19 号を発行いたします。期別便りをお寄せくださった方々、会員名簿記載内容の修正へのご助力をいただきました期幹事をはじめ会員の皆様に深く感謝申し上げます。
- 何かお気づきの点がありましたら土木会事務局までご一報ください。

(編集子)

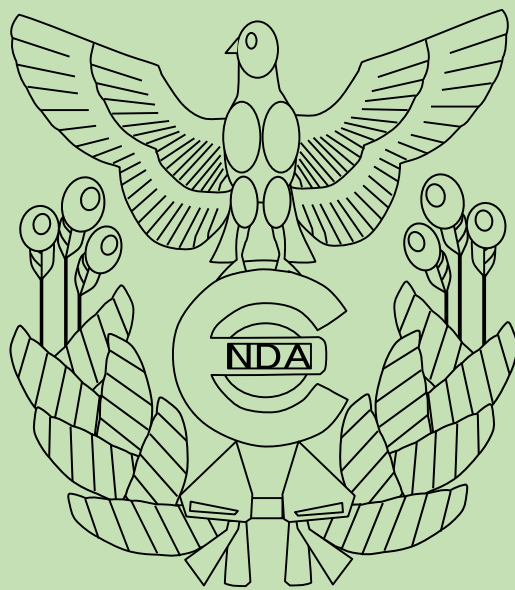
事務局長	市野	宏嘉
------	----	----

企画幹事	堀口	俊行
------	----	----

渉外	福井	智大
----	----	----

会計	森	広毅
----	---	----

事務	水落	信恵
----	----	----



Civil Engineering